

令和7年度 第1回 八尾市空家等対策協議会 会議録

日 時：令和7年7月25日（金）13時30分～15時30分

会 場：八尾市役所本館 8階 会議室

出席者：大松桂右委員、清水陽子委員、佐野こずえ委員、福平武委員、増田正子委員、
山田和雄委員、岩田達史委員、林久雄委員、濱崎信子委員、美馬功之介委員、
辻野忠彦委員、猪股賢委員、山下和博委員、山田豊弘委員

1 開会

出席委員14名で定足数を満たしており会議成立

2 議題等

（1）会長及び副会長の選出について

会長に清水委員が推薦され、会長より副会長に中島委員が指名された。

（2）令和7年度の空家等対策の取組みについて

①管理不良空家等の取組み状況について

②空家セミナー等の開催及び空家バンクについて

③空家等利活用・解消支援制度に関する補助制度について

事務局 資料2～資料4及び参考資料1について説明を実施。

会長 空家に関する相談件数は例年通りか。

事務局 例年通りであるが、台風等により多少の増減はあると考える。

会長 6月に実施したセミナーには何名参加したのか。

事務局 セミナー1名、相談会1名である。

会長 専門家が講師や相談員として参加しており有益な情報が得られる機会なので、周知等は実施していると思うが、より参加者が増えるよう周知等を工夫していく必要がある。

委員 今回参加してくれた人達はセミナーテーマである空家の初期相談（0.5次相談）が主旨であったこともあり、手ごたえを感じている。周知がしっかり機能すれば役に立つイベントになると感じている。広報誌だけではなく町会等に直接説明し参加を促す等の工夫が必要と考えている。

会長 中古住宅マイホーム取得補助制度は何件程度の申請を見込んでいるのか。

事務局 20件程度を見込んでいる。

④空家等所有者へのダイレクトメールの送付について

事務局 資料5及び参考資料2について説明を実施。

会長 意向調査兼相談概要書は紙ベースのみの返信を想定しているのか。

- 事務局 返信用封筒を同封していることより、紙ベースで返信を想定している。
- 会長 意向調査兼相談概要書に QR コードを添付し、電子上での回答手法についても今後検討すべきでは。
- 委員 啓発冊子等に記載している八尾市空家等対策協議会 初期相談チームとは「0.5 レンジャー」を指しているのか。また、どこに相談すればいいのか分からない人達が八尾市空家等対策協議会 初期相談チームに相談する認識でよいのか。
- 事務局 その通りである。
- 委員 八尾市空家等対策協議会 初期相談チームの表記方法について、「0.5 レンジャー」と記載し、ユーモアを取り入れるなど工夫し空家所有者が相談しやすくするべき。
- 委員 受け手側は「0.5 レンジャー」の意味がわからないと考える。八尾市空家等対策協議会 初期相談チームのほうが理解しやすいし、「八尾市空家等対策協議会」という名前がある方が安心感があると思う。
- 委員 八尾市空家等対策協議会 初期相談チームの説明欄にヒーローのイラスト等を入力するなど、ユーモアのある相談しやすい雰囲気を作るのはどうか。
- 委員 啓発冊子内に市の連絡先や八尾市空家等対策協議会 初期相談チームや各種相談窓口等の連絡先が乱立しており分かりにくい。
- 「相談窓口一覧」は八尾市空家等対策計画に掲載している相談窓口一覧の方が分かりやすいと考える。相談窓口一覧は相談内容の一例を入れるなど工夫が必要。
- 委員 啓発冊子 P.4 及び P.6 の 05 項目は八尾市空家等対策協議会 初期相談チームへの誘導が主旨なので、05 項目と八尾市空家等対策協議会 初期相談チームの文字色は揃えるべき。
- 会長 空家所有者に読んでもらい保管してもらう必要があるため、捨てられないような工夫が必要である。
- 事務局 見直しさせていただき、煩雑な伝え方にならないよう精査する。
- 委員 啓発冊子等を見て直接団体に相談があった際は、市に報告すべきか。
- 事務局 報告は不要である。

(3) 意見交換

- 委員 八尾市産業政策課が「八尾あきんど起業塾」という起業を支援する制度を行っていることを知った。他市においても似たような事例があり、起業するためには建物が必要となるので、空家部署と連携することができないかと相談を受けたこともあるので、八尾市においても産業政策課と連携し空家解消に取り組むのも手段の一つと考える。
- 事務局 各部会の日程調整については、改めてメールを送る。